

「数値化」マネジメントとは何か / 会社を成長させる 「数値化」マネジメント（1）

Index

- 1 孫正義社長から叩き込まれた「数値化」のノウハウ
 - 2 “ダメな数値化”に取り組んでいませんか？
 - 3 数値化マネジメントは経営者に必須のスキル
-

1 孫正義社長から叩き込まれた「数値化」のノウハウ

「経営者は数字に強くなれ」

皆さんも、こんな言葉を散々耳にしてきたのではないのでしょうか。

ビジネスに数字が不可欠なことは誰もが理解しています。しかし、実際の事業や業務に数字をどう当てはめ、活用すればいいのか分からない。そんな声がよく聞かれます。

そこで本コラムでは、多くの企業が直面している問題をスピーディに解決し、成果を出すための実践的な仕事術である「数値化マネジメント」をご紹介します。

私はこの「数値化」のノウハウを、ソフトバンクの孫正義社長から叩き込まれました。

20代半ばでソフトバンクに転職した私は、孫社長のもとで社長室長を務め、ブロードバンド事業「Yahoo!BB」の立ち上げや証券取引所の「ナスダック・ジャパン」の開設、日本債券信用銀行（現・あおぞら銀行）の買収など、さまざまなプロジェクトに携わりました。

当時のソフトバンクはまだ知名度も低く、人手や予算などのリソースも限られたベンチャー企業でした。それが前例のない新しいビジネスや事業をゼロから次々と立ち上げ、実行していくのですから、現場では毎日のように何かしらの問題が発生しました。それらを超高速で解決し、急成長を遂げることができたのは、孫社長が徹底して数字を活用したからです。

ソフトバンクの経営は、「ゴール志向」「数値化」「高速PDCA」の3つの要素に集約できます。「ゴール志向」とは、まず目指すゴールを明確に定め、そこから逆算して「いつまでに何をやるか」という具体的なアクションに落とし込むこと。「高速PDCA」とは、ゴールまでの間に小さな目標をいくつも設定し、達成度を毎日チェックして素早く改善するサイクルを回すこと。そして、この2つを実践するのに不可欠なのが「数値化」です。ゴールや目標の設定も達成度の管理も、数字を使わなければできません。よって数値化マネジメントは、ソフトバンク流経営術の核となる重要な手法と言えます。

2 “ダメな数値化”に取り組んでいませんか？

これまでの話を聞いて、「数値化ならうちの会社もやっている。部下たちにはデータや資料を事細かに提出させているし、数字で結果を示せと口うるさく言っている」という経営者は多いかもしれません。

しかし、その数値化は本当に経営の問題解決につながっているのでしょうか。具体的なアクションに結びつかない数字をいくら集めても、会社には何の意味もありません。

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。